

個別の人権課題		高齢者		
校 種	高等学校	本時に関わる 3つの側面	知識的側面	◎
対象学年等	第1学年		価値的・態度的側面	○
教科等	家庭基礎		技能的側面	
単元名	高齢期の生活と福祉			

1 単元の目標及び計画

(1) 単元の目標

- ア 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解するとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付ける。
- イ 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付ける。
- ウ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るため、実践しようとする。

(2) 単元の計画

- 1次・・・高齢社会に生きる
- 2次・・・高齢者を知る
- 3次・・・高齢者のサポートと介護の心
- 4次・・・高齢社会を支える仕組み（本時）

2 学習指導要領等の該当箇所

高等学校学習指導要領・第2章・第9節家庭・第2款・第1家庭基礎

2 内容 A 人の一生と家族・家庭及び福祉

(4) 高齢期の生活と福祉

- ア 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解するとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けること。
- イ 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察すること。

3 本時の目標

介護保険制度の仕組みやサービスの内容、高齢者を支える地域社会の役割について理解する。

4 人権教育との関わり

この単元では、高齢期の生活と福祉について学習する中で、個別の人権課題である「高齢者」に関連する内容を取り扱います。具体的には、高齢者の就労問題、高齢者の暮らし方等の生活実態調査資料等を基に高齢期の状況を把握したり、祖父母や身近な高齢者から生きがい、社会参加、健康問題と介護、生計の維持等について聞き取ったりする活動や、老老介護、高齢者虐待などの現代の高齢者介護に関する事例を取り上げることで、高齢期になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる社会について理解できるようにすることを大切にしています。

5 本時で育てたい3つの側面

知識的側面	人権を支援し、擁護するために活動している国内外の機関等についての知識
価値的・態度的側面	自他の価値を尊重しようとする意欲や態度

6 本時の学習過程

学習過程等	人権教育との関わり等	資料等
<p>・「老老介護」や「高齢者虐待」等、現代の高齢者介護に関する事例から高齢者を取り巻く社会環境について触れ、本時の学習への関心を高める。</p> <p>【課題】高齢者を支えるために、社会にはどのような仕組みがあるのかを知ろう。</p> <p>■学習活動</p> <p>【介護保険制度の仕組みについて調べ、交流しよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度は、高齢者が介護を必要とする状態になってもできる限り自立した日常生活が営めるよう社会全体で支え合うことを理念としている。 ・日本に住所を持つ40歳以上の者は全て加入し、月々保険料を支払っている。 ・介護サービスを利用するには、自治体の介護認定を受けることが必要である。 ・要介護度に応じて、1～3割の費用を負担することでサービスを利用することができる。 ・介護保険が提供する介護サービスには、自宅で暮らしながら利用できる居宅サービスや、入所して利用できる施設サービス等がある。 <p>■学習活動</p> <p>【高齢者を支える地域の役割について調べ、交流しよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムとは、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための総合的な支援体制であり、医療や介護、介護予防、住まい、日常生活の支援等のサービスを連携させることで、高齢者の誰もが地域で必要な支援を受けられるようになるという考え方であり、このシステムの構築が求められている。 ・高齢者の孤立を防ぎ、介護者である家族の生活を支えるために、地域住民の交流の場の設置や運営、市民団体やボランティアを中心とした高齢者の見守り、日常生活の手助け等が重要である。 	<p>【知識的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権を支援し、擁護するために活動している国内外の機関等についての知識 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度の利用により、高齢者ができる限り自立して暮らすことを支えるとともに、介護をしている家族の負担の減少にもつながることを確認する。 	<p>○資料「ひろしま高齢者ガイドブック」（広島県健康福祉局）</p> <p>○資料「地域包括ケアシステム」（厚生労働省ホームページ）</p>
<p>【まとめ】介護保険制度を利用することで、高齢者は必要なサービスを低額で利用することができる。介護をしている家族などは、介護の負担が軽減され、福祉の専門家と連携して高齢者の自立した生活を支えることができる。地域包括ケアシステムの構築や地域住民による支援等により、高齢者の生活を地域で支えることが重要となる。</p>		
<p>■学習活動</p> <p>【高齢者と共に、社会の一員としてどのような社会を構築していくべきか話し合おう。】</p> <p>(例) 高齢者の自立した生活を支援することができるように、自分にできることを考えていきたい。</p> <p>(例) 高齢者にとって不都合なことに気づけるよう、引き続き学んでいきたい。</p> <p>(例) 仕事や社会的な活動(町内会の活動等)が生きがいとなっている高齢者も多いことを学んだ。地域行事に積極的に参加し、高齢者とより関わり、一緒に学んでいきたい。</p>	<p>【価値的・態度的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の価値を尊重しようとする意欲や態度 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と高齢者の双方にとってよりよい関わり方となることが重要であることを確認する。 	

個別の人権課題		インターネットによる人権侵害		
校種	小学校	本時に関わる 3つの側面	知識的側面	○
対象学年等	第5学年		価値的・態度的側面	◎
教科等	社会		技能的側面	○
単元名	情報化した社会と産業の発展			

1 単元の目標及び計画

(1) 単元の目標

我が国の産業と情報との関わりについて、情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞、統計資料などの各種資料を調べたりして、まとめ、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。

(2) 単元の計画

- 1次：情報産業とわたしたちの暮らし
- 2次：情報を生かすわたしたち（本時を含む）

2 学習指導要領等の該当箇所

小学校学校学習指導要領・第3章各学年の目標及び内容・第3節第5学年の目標及び内容

2 内容
(4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができる。
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
(ア) 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。
(イ) 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。
(ウ) 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
(ア) 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
(内容の取扱い)
(4) 内容(4)については、次のとおり取り扱うものとする。
ア 情報を有効に活用することについて、情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることに気付くようにすること。

3 本時の目標

情報の適切な取り扱い方について調べ、文章で表現することができる。

4 人権教育との関わり

この単元では、個別の人権課題である「インターネットによる人権侵害」に関連する内容を取り扱う。情報の中には不確かなものや誤ったものもあることを踏まえ、情報の受け手として、情報を収集・選択し、様々な観点から比較して適切に判断することの大切さに気付くようにする。また、情報を発信する際には、不確かな情報や誤った情報が広がることによって、風評被害などが生じ、関係者の人権等が著しく侵害されることがあることを理解できるようにする。

5 本時で育てたい3つの側面

知識的側面	自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解
価値的・態度的側面	人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度
技能的側面	複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能

6 本時の学習過程

学習過程等	人権教育との関わり等	資料等
<ul style="list-style-type: none"> インターネットでできる主なことを出し合い、その良さを交流し、情報化によって生活が便利になっていることを捉える。 新聞記事からインターネット利用に関わる問題を捉える。 		<ul style="list-style-type: none"> ○資料「インターネットの普及率（総務省）」
<p>【課題】資料からインターネット利用における問題点について読み取り、情報活用における注意点について調べ、まとめよう。</p>		
<p>■学習活動</p> <p>【資料からインターネット利用における問題点を読み取ろう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットの利用で起こる問題 (例) 友達からの信用を失うかもしれない。 (例) 無断公開は個人情報の流出につながり、悪用されるかもしれない。 インターネットを利用した犯罪の件数の変化 (例) スマートフォンやパソコンの普及と犯罪件数の増加に関係がありそう。 (例) インターネットは、おたがいが顔を合わせなくても情報のやりとりができるからではないかな。 授業でコンピューターを使う様子 (例) 調べた情報を全て信じたり、まとめる時にそのまま使ったりするのはよくないと思う。 	<p>【技能的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の資料情報を読み取らせることで、多角的にインターネット利用における問題を捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料「インターネット利用に関わる問題を報じた新聞記事」 ○資料「インターネット利用で起こる問題」 ○資料「インターネットを利用した犯罪の件数の変化（警視庁）」 ○資料「インターネットを利用する機器の種類（総務省）」 ○資料「授業でコンピューターを使う様子」
<p>■学習活動</p> <p>【情報活用における注意点について調べよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け手、送り手それぞれの注意点について個人で調べ、グループで整理して発表する。 <p>【受け手】</p> <ul style="list-style-type: none"> (例) 正しい情報かどうかを見きわめ、情報を選んで受け取る。 (例) 顔が見えない相手を信用しない。 <p>【送り手】</p> <ul style="list-style-type: none"> (例) 不確かな情報や誤った情報を安易に広めたり、個人情報を無断で公開したりしない。 (例) 情報を引用し、まとめて発表するときには、国語科で学習したように著作権にも気を付ける。 児童の考えをもとに、メディアリテラシーについて伝える。 	<p>【知識的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報の中には、有害なものもあることや、不確かな情報や誤った情報、個人情報等が広がることによって、思わぬ誤解を生んだり、自他を傷つけたりすることにつながるおそれがあることを捉えさせる。 	
<p>■学習活動</p> <p>【情報をどのように活用したらよいか、考えをまとめよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> (例) 情報化によって生活は便利になった。情報活用においては、受け手と送り手それぞれのルールとマナーを守りたい。 (例) インターネットを使いたいじめや犯罪などの問題も増加している。情報活用にあたって、メディアリテラシーを身につけ、自分や友達を傷つけることにつながらないように注意して活用していきたい。 	<p>【価値的・態度的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学習活動において、大切な言葉をキーワードとして板書しておくことで、人権の観点も踏まえた表現ができるようにする。 	
<p>【まとめ】わたしたちの生活は情報化によって便利になった。しかし、インターネットを使いたいじめや犯罪などの問題も増加している。情報活用にあたっては、受け手は、正しい情報かどうか見きわめ、情報を選んで受け取り、送り手は不確かな情報や誤った情報を安易に広めたり、個人情報を無断で公開したりしないなどメディアリテラシーを身につけ、自他を傷つけることにつながらないように注意して活用することが大切である。</p>		